２０２４年業務実績報告書

提出日　2025 年　1 月　30 日

１．職名・氏名　　教授・杉山泰之

２．学位　博士（経済学）、専門分野　国際経済学、授与機関　大阪大学、授与年　2008 年

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 国際経済学 A（2 単位、2 年生） ＊07 年度以前入学生の「貿易論」にあたる。
②　内容・ねらい （Ⅰ）貿易が起こる理由と一国の輸出入のパターン、（Ⅱ）貿易がもたらす利益とその源泉、（Ⅲ）貿易政策の効果等について基礎的な理論を学ぶとともに、国際貿易体制や貿易取引の現状を把握し、現実の貿易に関する諸問題を見る目を養うことが目標である。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 通常の講義を行った。入門的な教科書レベルのオリジナル資料を毎回配布し、その資料内容について解説した後、内容に関するクイズを行うことで、学生がどの程度内容を理解しているかを確認しつつ、講義を展開していった。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 国際経済学 B（2 単位、2 年生） ＊07 年度以前入学生の「国際金融論」にあたる。
②　内容・ねらい （Ⅰ）為替レートの決定とその要因、（Ⅱ）為替レートの変化と貿易収支の調整、（Ⅲ）為替介入や開放経済下における財政・金融政策の効果等について基礎的な理論を学ぶとともに、国際通貨制度や国際金融取引のしくみを把握し、現実の国際金融に関する諸問題を見る目を養うことが目標である。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 通常の講義を行った。入門的な教科書レベルのオリジナル資料を毎回配布し、その資料内容について解説した後、内容に関するクイズを行うことで、学生がどの程度内容を理解しているかを確認しつつ、講義を展開していった。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 基礎ゼミ（2 単位、2 年生）
②　内容・ねらい 経済学の理論的な考え方を身につけること。その上で、現実の経済問題について調べ、その問題に対する自分なりの考えをまとめること。そして、今後の専門科目の勉強・研究に向けて目的意識を高めていくことが目標です。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫 基礎ゼミではミクロ経済学、マクロ経済学、そして国際経済学に関するトピックについてこちらが資料を準備し、その内容について補足説明を入れつつ、学生と資料の内容を読み進めていった。
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 演習Ⅰ（4 単位、3 年生）
②　内容・ねらい 国際経済学の理論的な知識を修得すること、世界経済の状況や貿易・国際金融システムとその機能を把握すること、このゼミを通じて自分の意見をまとめ、しっかりと伝えられるようになることが目標である。

[テキストを入力]

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

演習Ⅰでは、前期に標準的なテキストやこちらからの補足資料を参考にして、国際経済に関する理論を学び、後期に貿易と環境に関するテーマについて2つのグループに分かれて調査・研究を行った。 【フィールドワーク等 1件】

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
演習Ⅱ（4単位、4年生）

② 内容・ねらい
演習Ⅰでとり上げた内容から一歩進んだレベルの国際経済学の理論を修得すること、国際経済の諸問題についてそれらの理論を用いて一考察を加えること、ゼミを通じてその内容をまとめ、報告することなどが目標である。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
2023 年度も卒業論文の提出につなげていけるように演習Ⅱを進めた。各自が興味に応じて課題を設定し、関連する文献や記事を調べ少しずつ文章にしていった。毎回進捗状況を報告することで、それぞれの研究課題について理解を深められるように配慮した。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
専攻演習Ⅱ（4単位、 修士課程1～2年生）

② 内容・ねらい
本演習では国際経済学(国際貿易論・国際金融論)の理論的な分析手法を学び、これらの理論的な考え方に基づいて、国際経済に関する諸課題を分析し、修士論文の作成につなげていくことが目標である。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
専攻演習の履修者の問題意識に合わせて国際貿易論に関する論文や書籍を読み、そのテーマに関する先行研究を整理するとともに、理論的な分析手法を参考に、修士論文においてどのように新たな知見を加えることができるのかを見出していくことに主眼をおいている。

(2)その他の教育活動

4．研究業績

(1)研究業績の公表

① 著書

② 論文（査読あり）

③ 論文（査読なし）

④ 学会報告等

⑤ その他の公表実績：

[テキストを入力]

(2)科研費等の競争的資金獲得実績
【学外】科研費 1. 基盤 (C)（2018 年度～2020 年度）「寡占の一般均衡理論を用いた貿易と環境の分析: スキルプレミアムへの影響を踏まえて」（18K01576）、研究代表者. ＊2023 年度まで延長 2. 基盤 (C)（2022 年度～2024 年度）「国際寡占下の環境産業と環境財の貿易、直接投資に関する理論分析」（22K01439）、研究代表者.
(3)特許等取得
(4)学会活動等
地域公共政策学会 理事長　2023 年 11 月～現在に至る

５．地域・社会貢献活動

①－3　委員就任（市町村） 永平寺町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会　副委員長、2021 年 10 月～現在に至る ①－4　委員就任（その他公益法人等） 北陸 AJEC（北陸経済連合会）企画部会　委員、2022 年 10 月～2023 年 9 月

６．大学運営への参画

(1)役職（副学長、部局長、学科長）
経済学部長兼経済・経営学研究科長　2023 年 4 月～現在に至る（任期 2 年）
(2)委員会・チーム活動
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など

[テキストを入力]